

2011年6月1日発行 第124号

目次

P1 巻頭言 (棚橋征一副会長)	P17 2011年度年次総会
P2-12 シンポジウム「変貌する家族」	P18 エッセイ「天を恨まず」(三輪公忠名誉会長)
P12 都立三田高校・街頭募金報告	P19 「英会話講座」の門を叩いてみませんか!
P13-15 講演会「私の国ブルガリアの素顔」	P20 事務局便り
P16 デイブ・ロマツ・レクチャー「日本の国際協力の将来」	

歴史上の謎を解き明かす

港ユネスコ協会 副会長 棚橋征一



歳のせいもあるのか、歴史ものを読むことが多くなりました。特に、新しい事実を発掘したものとか、斬新な切り口で新しい解釈を加えたものなどに興味をもちます。

歴史といえば、年明け早々に大学のクラスメイトのひとりがすばらしい歴史上の発見をして、マスメディアでも紹介されました。日本の卒業式では定番になっている「あおげば尊し」は、元々、明治時代に文部省が欧米の曲に日本語詞をつけて小学唱歌集に入れた曲のひとつとされてきましたが、その出典がずっと謎のままでした。友人がこの謎に終止符を打ってくれました。

学生時代、熱心にコーラス部で活動していたこの友人は、大学で英語学を講じる傍ら、インターネットを駆使するなどして、小学唱歌集と欧米の古い音楽教科書とを照合し、原曲探求の調査をしてきました。そうした地道な努力が報われて、「あおげば尊し」が実は米国で1871年に出版された「The Song Echo」という本に収録されている「Song for the Close of School」(卒業の歌)という曲と旋律が全く同じであることを発見したのです。テレビのニュースで、ピアニストがこの原曲を演奏するのを聴きましたが、完璧に一致していました。

私事になりますが、以前勤務していた企業が創立百周年を迎えた際に百年史を刊行することになり、その編纂に従事したことがあります。既に70年史が出ていましたが、ひとつ関心をもった点がありました。明治32年(1899)に外国資本の入った初の合弁会社として設立されたのですが、発起人の中にいた2名の米国人のうち、なぜか、片方は名前が知れているだけで、人物像が全く不明のままでした。そこで、折角の機会なので、何とか手を尽くしてこの人物像を解明してみようと考えました。

たまたま東京アメリカンセンターで司書をしている知人がいたので、事情を伝えて相談してみました。米国では昔から紳士録(一般にWho's Whoと呼ばれる)が刊行されているから該当時期の版に当たってみましょうと、すぐに調べてくれました。すると、どうでしょう!同姓同名の人物が採録されており、その履歴を読むとこの人物に間違いがないことが判りました。また、在日中に一高で教鞭をとったことがあるので東大の史料室に当たった結果、関東学院の設立にも深く関係していることが判り、関東学院からはこの人物を詳しく紹介した特集記事を頂きました。さらに、彼が属していた日本アジア協会を探し当てて、保管されていた日本に関する彼の著作を閲覧することもできました。ささやかな歴史発見でしたが、「芋づる式」に史実が判明したときは、当協会の「太公望」水野事務局長の釣りではないですが、やったあ、という思いでした。

(17頁下に続く)